

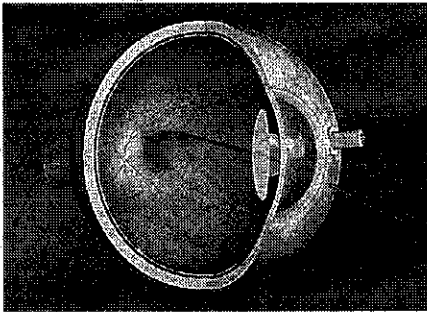
角膜からレンズ、網膜まで。目の中はほとんど透明の組織でできています。普段は光を通すため当然だが、手術となると眼科医でもそれぞれの組織を区別するのは難しい。アキユメンバイオフィーマ(福岡市)は無色の組織を染め分ける手術用染色剤を開発する九州大学発の創薬ベンチャーだ。

まず利用が考えられているのが白内障の治療。加齢などで眼球のレンズが白く濁る症状は「個人差はあっても、七十歳ぐらいになればほとんどの人に症状が出る」(鍵本忠尚社長)。濁ったレンズを取り出し、空の袋状にして人工レンズを埋め込む手術で対応するのが一般的だが、レンズの表面は透明な薄膜で覆われており、染色剤で薄膜を

点検 VB 大学発

九州大

- ▽本社 福岡市中央区天神 2-3-36
- ▽電話 092・642・6428
- ▽社長 鍵本忠尚氏 (かぎもと・ただひさ)
- ▽大学との関係 新株予約権付与し特許を譲り受ける
- ▽株主構成 鍵本氏や大手ベンチャーキャピタルなど



眼球の奥に染色剤を注入して薄膜を染める

して開発費を稼ぐケースが多いが、アキユメンは自ら販売元になる。予定で米社に製造を委託。米食品医薬品局(FDA)に年内に承認申請を提出し、○九年にも承認

製品化に期待 稼ぐケースが多いが、アキユメンは自ら販売元になる。予定で米社に製造を委託。米食品医薬品局(FDA)に年内に承認申請を提出し、○九年にも承認

る。バイオベンチャーへ出資を持ちかけられることも多いが、夢のような事業計画を説明されても投資はできない。その点、同社は創薬研究の経験者や公認会計士など他社と比べ専門的な人材が重要だ。

目の組織、染め分け 手術の安全配慮 資金調達に課題

アキユメンバイオフィーマ

青く染め区別する。現在普及している眼科

手術用の染色剤は角膜とレンズの間の水を抜いて使用するため、手術に時間がかかるという。アキユメンの染色剤「タイム」は化学実験でたんぱく質の染色剤に使われる化合物の染色剤に使用権を譲り受け開発

創薬研究の大半は米子からインドで臨床試験(治験)の最終段階「第三相」に入った。糖尿病が原因となる網膜の内側の浮腫など、目の奥の手術の治験も年内をメドに国内で始める予定だ。創薬ベンチャーは販売権を大手製薬会社に譲渡

バイオベンチャー

タイムは九州大学病院

(城戸孝明)